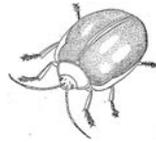


たんぽう



神戸市須磨区に発生していたニッポンハナダカバチ

高島 孝夫

神戸市須磨区高倉台の兵庫県立こども病院の正面入り口に入って左手に小さな公園があります(写真1)。この公園には藤棚やベンチの他、ジャングルジム・ブランコ・すべり台等の遊具が設置されており、すべり台の下には6m×4m程度の小さな砂場があり、ここ数年、夏になると、この砂場に変わったハチが発生していることに気がつきました(写真2)。



ハエやアブを狩るハチらしく、兵庫県ではレッドデータブックに準絶滅危惧種として記載されており、県内の近年の分布記録によると日本海側では豊岡市、香美町、淡路島では洲本市、南あわじ市に分布の記録がある珍しいハチであることもわかりました。

なにぶん、素人の見立てでは自信がなかったため、こんな時は専門家に頼るのが一番と、NPO法人こどもとむしの会事務局の八木剛様に不躰なメールを投げかけたにも関わらず、快く同定いただき、心のもやを晴らすことができ厚く御礼申し上げます。

ただ、残念なことに、このニッポンハナダカバチが営巣している兵庫県立こども病院も平成27年度にポートアイランドへの移転が決まっており、この跡地は売却予定とのことで、たとえこの砂場が無くなっても、近隣の類似する環境で、営巣を続けていってもらいたいもので、この珍しいハチの小さなコロニーの今後を危惧しております。

(Takao TAKASHIMA 神戸市東灘区)

変わったと表現したのはその外見ではなく、外見は胴体部分は多少緑がかったクリーム色と黒色の縞模様のハチで、よく目にするミツバチの胴体を少し長くしたようなものです。変わっているのはその行動で、地上50cmくらいの高さを数匹が追いかけっこをするように連なって飛んだり、砂に巣穴を掘るため、前足で砂を後ろ足の間から後方に器用に掻き出す様に興味を魅かれました(写真3, 4)。

素人にも最近では便利なもので、『穴掘りハチ』をキーワードに、インターネット上を画像検索すると、かなり上位にまさにこのハチの画像が候補としてあらわれ、その画像をクリックするとたちまちこのハチの正体が判明致しました。このハチはニッポンハナダカバチといい、